

妙心寺の参道空間に関する研究

京都大学大学院 学生員 ○小林 昌季 京都大学工学部 正会員 山田 圭二郎
京都大学大学院 学生員 森 啓年 京都大学工学部 正会員 川崎 雅史
京都大学工学部 正会員 田中 尚人 京都大学工学部 正会員 中村 良夫

1. 研究の背景と目的

道の景観は周囲の建築物等の働きかけによって、徐々にその姿を変化させ、年月をかけて形成される。

寺院内に存在する参道は、その多くが寺院塔頭の塀や石垣、境界となる植栽等の他属的、他律的な要素によって形成されており、他との相互作用によって形成される道空間の特質を見ることができる。相互作用の結果として形成された参道には、場所によってデザインの様式とも言える空間の格を観察することができる。

本研究では妙心寺の参道を対象として、参道ネットワーク上において参道構成要素がどのような変化をするかわかりかにするとともに、参道景観の格について考察を行った。このような空間の格を読むことは、道の景観を理解するための第一歩であると思われる。

2. 研究の方法

図-1 のように参道ネットワーク上の配置に基づいて参道の分類 (A、B、C、Dタイプ) を行い、これに従って以下に挙げる諸調査の比較を行った。

- ・参道断面のスケール
- ・参道の敷石デザイン
- ・参道境界部のデザイン (土塀デザイン、植樹の配置状況)
- ・塔頭の表門デザイン

3. 調査結果

- ・参道断面のスケール

参道景観を左右する定量的な要素として参道断面のスケールを調査した。その結果、Bタイプの参道に比べC、Dタイプの参道は狭く、閉鎖感を有していることが分かった。

- ・参道の敷石デザイン

妙心寺山内の参道敷石のデザインを調査し、各敷石デザインを「真行草」のデザイン原理を用いて分類した。その結果、Aタイプの参道では真体により近い敷石デザイン、Dタイプの参道では草体により近い敷石デザインが用いられており、AタイプからDタイプの参道に向かう過程で参道敷石デザインが真体から行体へ、行体から草体へ変化する

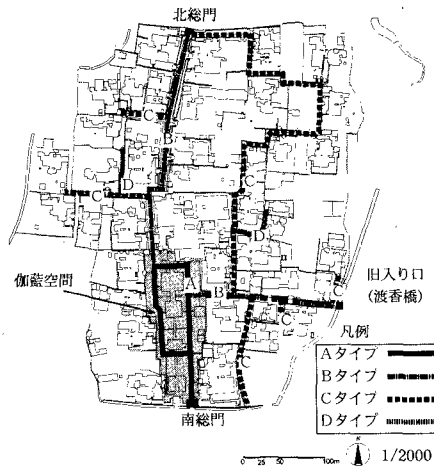


図-1 参道分類図

ることが分かった。

- ・参道境界部のデザイン

<土塀デザイン>

土塀デザインの分析においては、妙心寺山内の土塀デザインを壁部分のデザインと屋根部分のデザインの意匠から分類し、参道のタイプ別にどのようなデザインが多く使われているかを明らかにした。その結果、Aタイプの参道では格式が高く、真体に近いデザインが用いられ、Dタイプの参道では簡略でより草体に近いデザインが用いられていることが分かった。

<植樹の配置>

参道のタイプ別に植樹の使われ方をまとめた。A、Bタイプの参道においては松が多く用いられ、植樹は主に参道景観の統一性を形成するために用いられていることが分かった。Cタイプ、Dタイプの参道においては、各塔頭がアプローチ空間の演出の手段として植樹を用いていることが分かった。

- ・塔頭の表門デザイン

参道のタイプ別に表門デザインの形態を分析すると、A、

Bタイプの参道上の表門は、参道と表門を結ぶ舗石道を長くする設計がなされ、C、Dタイプの参道上の表門は、参道から表門までの距離は短いことが分かった。

以上の4調査の結果を図-2にまとめた。

4. 参道構成要素の変化

参道ネットワーク上をAタイプからDタイプの参道へ移動する過程で見られる参道構成要素の変化は次の5項目にまとめられる。

① 格式

AタイプからB、C、Dタイプの参道の流れの中で土塀デザインは格式の高いものから簡略化される。

② `真行草`のデザイン

参道敷石のデザイン、土塀デザインはAタイプからB、C、Dタイプの流れのなかで真体から草体に变化する。

③ 空間スケール

参道空間の閉鎖性が高くなる。

④ 参道景觀の統一性

A、Bタイプの参道においては植樹、表門様式によって

参道景觀の統一性が演出されているのに対し、C、Dタイプの参道では参道景觀は一様でなく自由度が高い。

⑤ 公的空間、私的空間

塔頭は参道から表門までに舗石道を有し、参道空間から塔頭敷地へ至る、急激な空間変化を緩和する緩衝領域としている。AタイプからB、C、Dタイプの参道の流れのなかで舗石道の長さは短くなり、参道空間がより塔頭寄りの空間に近づくことが分かる。

5. 結論

参道空間の構成要素は、伽藍空間から各塔頭に至るシーケンスの中で(参道ネットワークでAタイプからB、C、Dタイプの参道へ向かう過程)、デザイン、スケール、また使われ方において共通した段階的な変化を見せる。

参道景觀をこれらの構成要素の統合として考えると、参道景觀も伽藍空間から塔頭に至る過程で段階的に変化しているといえ、参道のネットワーク上の配置によってある程度決まった様式いわば「参道景觀の格」が存在すると結論づけられる。

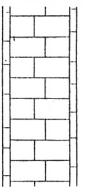
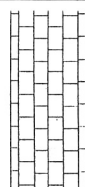
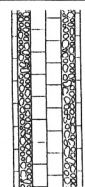
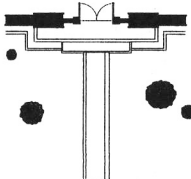
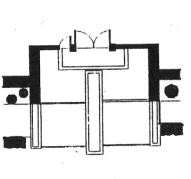
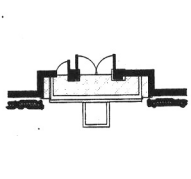
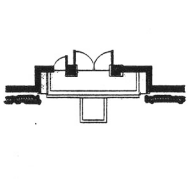
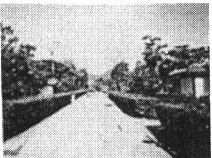
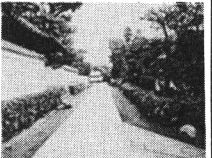
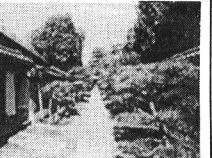
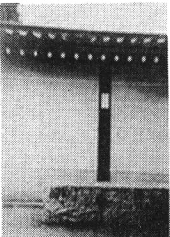
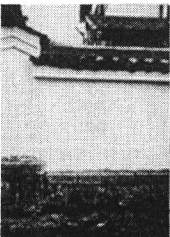
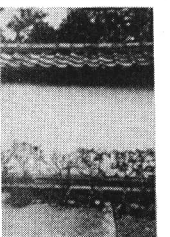
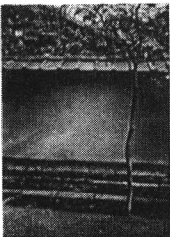
	A (中心的な参道)	B (基軸的な参道)	C (塔頭間参道)	D (袋小路)
敷石デザイン				
表門デザイン				
植樹				
土塀デザイン				

図-2 調査結果